

「上がり」ました！！ 5回生<sup>すごろく</sup>双六

永田 良

地にあるもの、水に棲むもの、空を飛ぶもの、生きとし生けるものはみないつか生命が尽きる。不老不死を夢見てあれこれもがいた人間も居たが、徒労に帰した。

なにやらいわくありげな書き出しになったが、われら5回生（昭和25年、1950年入学。昭和28年、1953年卒業）の命運も、ほぼほぼ尽きかけている令和4年、2022年10月22日、正真正銘最後の同期会を開催した。数えて第21回目である。従って会報に「同期会だより」を寄稿するのもこれが最後です。

実は5回生は数奇な歩みを強いられた回生である。「筒台会報第49号」に同期の加藤恒雄君が寄稿しているが、昭和28年以前の沿革史では新制神戸市立葺合高校の設立が明記されておらず、あたかも旧制神戸市立神戸中学校の後継校と解釈される文言のみが記されていた。この誤りはその後の幾多の交渉を経て「昭和24年4月新制神戸市立葺合高等学校設立」が市教委・学校当局の公式見解として定着、ホームページにも記載された。われわれはその2回生として入学し、2回生として卒業した、という事が明確になったのである。げんに私の手元にある卒業アルバムにも「2回生卒業記念」と印字されている。

ではなぜ5回生と称されるのか、実のところ私にはわからない。旧制中学が新制高校に横滑りしたわれわれと同年齢の者はみな5回生と呼ばれている。葺合高校2回生だが世間的には5回生！ということで収めておきましょう。

5回生は今日まで20回同期会を開いてきた。第1回は昭和33年、1958年に卒業5周年記念として母校グラウンドで、とのメモが残されているが私の記憶には何も残っていない。

画期的だったのは、第9回目の平成7年1995年10月の同期会。あの阪神淡路大震災の年に「がんばろう神戸！」と銘うって開いたとき70名近くが集まった。この時が一番多かったと記憶している。同期生には犠牲者は居なかったがとにかくみんなで励ましあった会だった。

大体3～6年間隔で開いてきた5回生同期会も徐々に参加者が減り、前回2019年には16名になってしまった。

そして遂にわれわれは88歳となり、心では不老不死のつもりでもいかんせん身体はかなりの劣化状態。最終第21回、令和4年2022年10月22日の参加者9名。（男性6名・女性3名）。ありていに言えば「生き残り」ということであるが、でも楽しかった。5回生の歌姫寺本（宮原）貞乃さんの「ラストダンスは私に」をしみじみと聴き、吉田良助君たったの所望による「川の流れるように」では「でこぼこ道や曲がりくねった道」のくだりで各人己が人生を重ねたことであった。校歌斉唱が3番まで来たときはもう氣息奄々、ぶっ倒れそうになった。

我々の命運は尽きても、母校は年年歳歳花開き、Z世代の若者たちが「密なる青春」を謳歌し続けてくれるであろうことを信じて、双六の上りとさせていただきます。

